

日本の大学のハラスメント資料の内容分析

— ハラスメント予防と解決に対する共通認識について —

北海道大学高等教育推進機構 川畑智子

1. 目的

この報告の目的は、日本の大学のハラスメント防止対策マニュアルやそれに準ずる資料を対象に、ハラスメント予防と解決に対する共通認識を把握することを目的としている。本報告では、主に、資料に記載されたハラスメント予防に対する方針や考え、定義などについて内容分析を行い、その結果を報告する。本報告は、「大学における「職場のいじめ・嫌がらせ」の定義とキャリアカウンセラーの役割」（基盤研究C 研究課題名:代表:川畑智子, 連携研究者:江原由美子)の研究の一環として報告する。本研究の最終目標は、1. 大学における「職場のいじめ・嫌がらせ」の定義について統一見解を出すことで、「職場のいじめ・嫌がらせ」を早期発見・予防・解決を可能にするための環境を整備し、2. 大学におけるこの分野のキャリアカウンセラーの取組み事例を調査し、その役割や支援体制について紹介することである。

2. 方法

そこで、データとして、昨秋に全国 1131 校の国公立大学に対してアンケート調査を実施し、郵送または電子メールにより提供された全国 347 大学のハラスメント防止対策マニュアルやそれに準ずる資料をテキスト分析の対象として使用する。

テキスト分析を始める前に、1. 提供された大学の特徴を把握し、2. 収集された資料の基本情報として、ハラスメント分類法、分類の個数、宣言文、資料の形態と種類、資料の使用言語、相談窓口の有無、相談員向けマニュアルの有無、通報制度の有無、相談の流れの有無、相談の手続きの有無、当事者のイメージ、当事者へのメッセージ、周囲の人へのメッセージ、宗教、ハラスメント類型、ガイドラインの適応範囲などを把握する。その後、テキスト分析の対象を主にハラスメント予防に対する方針や考え、定義などにしぼり、SPSSテキスト分析ソフトを用いて内容分析を行う。

3. 結果と結論

現在、上記 1 と 2 のデータ整理をしているため、テキスト分析結果および結論は、報告当日に報告する。

文献

御輿久美子 2004 「アカデミック・ハラスメントの実態調査研究-大学および大学教員に対するアンケート調査結果の概要-」『共生社会研究』創刊準備号 47-49

御輿久美子 2007 「アカデミック・ハラスメントのない大学に向けて」大学評価学会『アカデミック・ハラスメントと大学評価—より開かれた大学をめざして—』晃洋書房 p37-38

厚生労働省 2012『職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキング・グループ報告』(2012年1月30日発表)

独立行政法人 労働政策研究・研修機構, 2011, 「個別労働関係紛争処理事案の内容分析Ⅱ—非解雇型雇用終了, メンタルヘルス, 配置転換・在籍出向, 試用期間及び労働者に対する損害賠償請求事案—」, 『労働政策研究報告書』, 133.

三木 啓子 2011 「職場のいじめ・暴力・ハラスメント防止対策(7)パワー・ハラスメント—問題の所在と防止対策」『労働の科学』66巻7号 p420-423